

救急処置実習 D（海外実習）を開講しました。

3月16～21日にかけて、オーストラリア・ヴィクトリア州メルボルンで救急救命学科3年生7名が、コロナ禍が明けて初めての現地での研修を行いました。学生達は16日に関西国際空港を出発し、17日のお昼に現地空港に到着。オーストラリアで最も人口や日本人留学生が多いメルボルンの町並みを視察し、日本にはない構造の高層ビル群やクイーンズマーケットを楽しみました。

18日はメルボルンにあるモナッシュ大学の救急救命学科の授業に参加し、心肺停止症例の救急隊活動を共に行いました。学生達はスマホを片手に身振り手振りも用いながら一生懸命英語を活用して現地の大学生との交流を深めました。

19日には同じくモナッシュ大学のシミュレーション施設を見学させていただき、俳優として活躍されている講師が患者役となって、よりリアルな演技でのシミュレーション訓練を見学しました。この授業では人の立ち居振る舞いが示す感情について学ぶという日本の救急救命士教育では行われていない視点での指導が行われており、学生達には新たな気付きが多くありました。

そして20日には現地の通信指令室を訪問し、救急隊がどのように活用されているのかを学び、日本の救急隊よりも高度な現地の救急隊に大きな感銘を受けました。その後、夕方の便で現地を出発し、21日早朝に帰国しました。

学生達は実習を通じて、まずは自分で英語を話そうと非常に積極的に頑張っていました。その姿にメルボルンの学生達も大きく感銘を受けていたようです。実際にSNSを通じて現地の学生との繋がりを作った学生もいます。

引き続き、救急救命学科ではメルボルンでの研修を行います。この実習を通して学生達が感じたものが将来の糧になることを願います。

